

環境市民講座

「行谷を歩く」 報告

日時：2014年9月27日（土） 9時30分～12時15分

場所：文教大学バスロータリー（集合）→文教大学キャンパス内→金山神社→芹沢配水池→
特緑指定予定の照葉樹林→左岸用水→細流→文教大学バスロータリー（解散）

参加者：一般市民（13人）

エコワーク会員（青木、池田、小山、岸、村中）

景観みどり課（森課長）

事務局 環境政策課（小室） 計：20人

秋らしい良い天気となり、多くの方が参加くださいました。文教大学バスロータリーにバスが次々に到着し、9時30分の集合でしたが、出発の前にトイレに行き、資料（※別途添付）を配布し、注意事項をお願いして、10時少し前に出発となりました。

元々、大きな谷戸だった文教大学キャンパスの中を通り、正門から出て、道路を渡り、行谷の谷を降りて行きます。途中、次々と植物の名前やクモの名前や生態、カマキリの見分け方など、案内役の池田さんが詳しく説明してくれます。

右側に民家が続き、その垣根の脇には外来種の植物が多く、今ではどこでも繁殖して秋深くまで咲き続けるアメリカサガオ、小さな白い花のマメアサガオが咲いていました。キダチコミカンソウもあり、池田さんが、マメアサガオと中がピンクのホシアサガオの違いやコミカンソウの特徴なども説明してくれます。庭にはめずらしい園芸品種の植物もあり、みなで色々楽しく話をしながら歩いて行きました。



垣根の脇にあったミカンの木にたわわに実が付いており、凄いですねと話しかけた人には、その家の方が実を取って下さいました。

金山神社の入り口には、道祖神が一か所にまとめて数体が祭られており、説明書きの立て札もあります。その道祖神の由来を聞いた後、上に階段を上がって行きました。隣がアジサイ寺の宝蔵寺です。金山神社の竹林を右側に登り、県の芹沢配水地のある通りに出ました。配水地の施設は、今は入館ができず、博物館的だった建物は使われていません。

事前に下見に行った時に歩けないほどだった芹沢配水地の横の道の草刈りをするため、少し前を行き、職員と3人で草を刈り払い、みなさんが歩くのに間に合わせました。



左には手入れがされていない竹藪が広がり、その下は現在開発が認可され、宅地開発がされています。

みどりの基本計画で特別緑地保全地区の候補予定地となっている茅ヶ崎では特徴のある照葉常緑樹林は、やはりタケが侵略しており、照葉樹林が壊れかかっています。早く手入れが必要で、タケの伐採だけでも市民にさせてほしいと考えていますが、地権者への許可を行政には早く取ってもらいたいと思います。

照葉樹林の中のアカガシ等を見ながら、急な階段を下り、左岸用水沿いに出て、細流へと行きました。大きなアオサギがゆっくりと舞っていました。細流側から文教大学方面を見ると、真ん中の低い部分が水田で、両側の森が連なり、大きな谷戸として認識できます。

細流には、ツリフネソウが見ごろとなっており、やさしいシロバナサクラタデと一緒に見事に咲いていました。ツリフネソウの名前の由来の花形やツルマメの毛深いマメがダイズの原種で食べられることなどの説明がありました。

また、池田さんが細流の中に網を入れ、容器の中に入れてのものを入れて、タニシ、タイワンシジミ、カワニナ、アメリカザリガニ、ヌマエビなどを見せてくれました。ドジョウもいたのですが、逃げてしまったようです。

私たちが呼びかけ、市民が保全活動をしていることも説明しました。この様に維持して行くことが大変だとわかって下さる方々が多く、みなさんへも協力を求めました。

細流で楽しんだ後、12時近くとなり、帰りの道を急ぎました。帰りにもアカネの花や仙人のひげと言われるセンニンソウの花の終わりの花柱などの説明を受けながら、文教大学バスロータリーに帰りました。

ハチに刺されることもなく、みなさん無事で、12時15分に解散となりました。

この行谷広町は、谷戸として照葉樹林を含め、コア地域としてどのように茅ヶ崎の財産として保全して行くか、重要な場所です。多くの人に関心を寄せていただくために、これからも定期的に観察会をしたいと考えています。

以上

茅ヶ崎の自然環境を考える会